

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(12) 箱根東京テフラ 露頭剥ぎ取り標本 (綾瀬市吉岡)

標本番号 KPM-NP 11

標本名 箱根東京テフラ 露頭剥ぎ取り標本

大きさ (分割枚数) 縦横に分割 (変形 3 枚)

KPM-NP 11-1: 幅 0.54 m, 高さ 1.62 m

KPM-NP 11-2: 幅 0.7 m, 高さ 3.2 m

KPM-NP 11-3: 幅 0.96 m, 高さ 2.89 m

重量

KPM-NP 11-1: 展示中のため不明

KPM-NP 11-2: 7.8 kg

KPM-NP 11-3: 21.9 kg

形状・展示・収納状況 KPM-NP11-1 は、板に固定した状態で常設展示 (神奈川県展示室)。11-2, 3 は、薄い絨毯状、短辺を軸として巻いて大型移動棚に収納

採集地 神奈川県綾瀬市吉岡

緯度・経度 N35°25'49", E139°25'11"

標高 40 m

露頭の種別と現状 段丘崖の自然露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 N45°W、65°W

堆積物の種別 降下テフラ (陸成層)

年代 660 ± 5.5 ka (箱根東京テフラ, 青木ほか, 2008)

採集作業 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会者 今永 勇

採集日 1992 年

関連文献等

貝塚爽平・森山昭雄 (1969) 相模川沖積低地の地形と沖積層. 地理学評論, 42(2): 85-105.

岡 重文・島津光夫・宇野沢 昭・桂島 茂・垣見俊弘 (1979) 藤沢地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 図幅), 地質調査所. 111pp.

成瀬 洋 (1957) 相模野台地南東部の関東ローム. 地質学雑誌, 63: 126-136.

相模原市地形・地質調査会 (1984) 相模原の地形・地質 調査報告. 相模原市. 57pp.

笠間友博・山下浩之 (2005) 高森丘陵南西部で出現した特徴的な箱根新期軽石流堆積物 [Hk-T(pfl)] について～高森丘陵と多摩丘陵で発見されたスコリアを含む成層堆積物の共通層序～. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (34): 1-16.

解説 標本は KPM-NP 11-1 ～ 3 に 3 分割され、そのうち KPM-NP 11-1 が生命の星・地球博物館 3F 神奈川県展示室で展示されている。神奈川県中央部の相模川流域に発達する河成段丘が分布する地域は、相模野台地または相模原台地と称され、複数の段丘面によって構成される。本露頭の段丘面は、成瀬 (1957) の飛行場面、貝塚・森山 (1969) の相模原面 (記号 S, Sc)、吉川 (1973) は武蔵野面を 3 つに細分したが、岡ほか (1979) は武蔵野Ⅱ面 (記号 MⅡ) に相当するとし、記号 M2 を用いた。また、相模原市地形地質調査会 (1984) は吉岡面 (記号 S2) としている。火山灰土層に含まれるテフラは下位より富士吉岡テフラ [F-YP] (吉岡ラビリ、吉岡軽石、YL、YP)、箱根按針テフラ [Hk-AP] (按針軽石)、箱根三浦テ

フラ [Hk-MP] (三浦軽石)、箱根東京テフラ [Hk-TP] (東京軽石) および箱根中央火口丘テフラ [Hk-CC: 詳細不明] である。箱根三浦テフラは上位に存在する火山砂層や火山灰層の降下ユニットはなく、下位の軽石層が断続的にみられた。箱根三浦テフラの下位には円礫が 2 つある。箱根東京テフラは降下ユニットが明瞭である。スケッチは笠間・山下 (2005) に従って区分した。TP6 とした火山灰に富む部分は不明瞭、また TP1 の下位に存在する火山灰層も確認できなかった。最上部に軽石流堆積物はなく、侵食され、TP7,8 は部分的に保存されている状態であった。箱根東京テフラの下位は剥ぎ取り面が、他所に比べ平滑で、より風化、粘土化が進行したとみられる。

記録者 笠間友博



図 1a-12-1. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 11-1) の写真 (神奈川県展示室 (中村 淳氏撮影)).



図 Ia-12-2. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

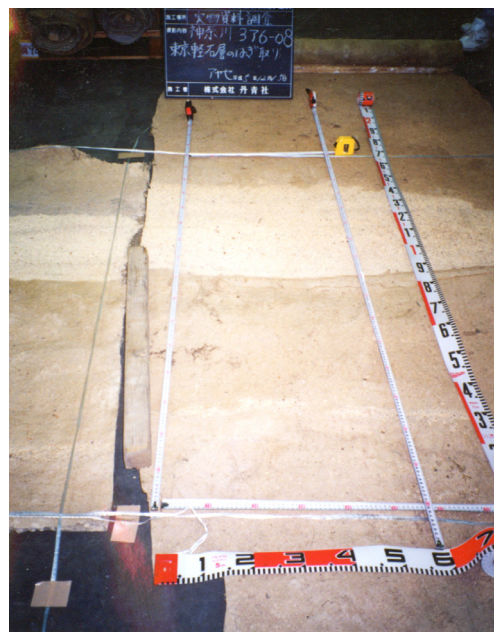


図 Ia-12-3. 分割する前の標本上部の写真 (KPM-NP 11-1 切り出し時)。



図 Ia-12-4. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 11-2) の写真。



図 Ia-12-5. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 11-3) の写真。



図 1a-12-6. 分割する前の標本写真.

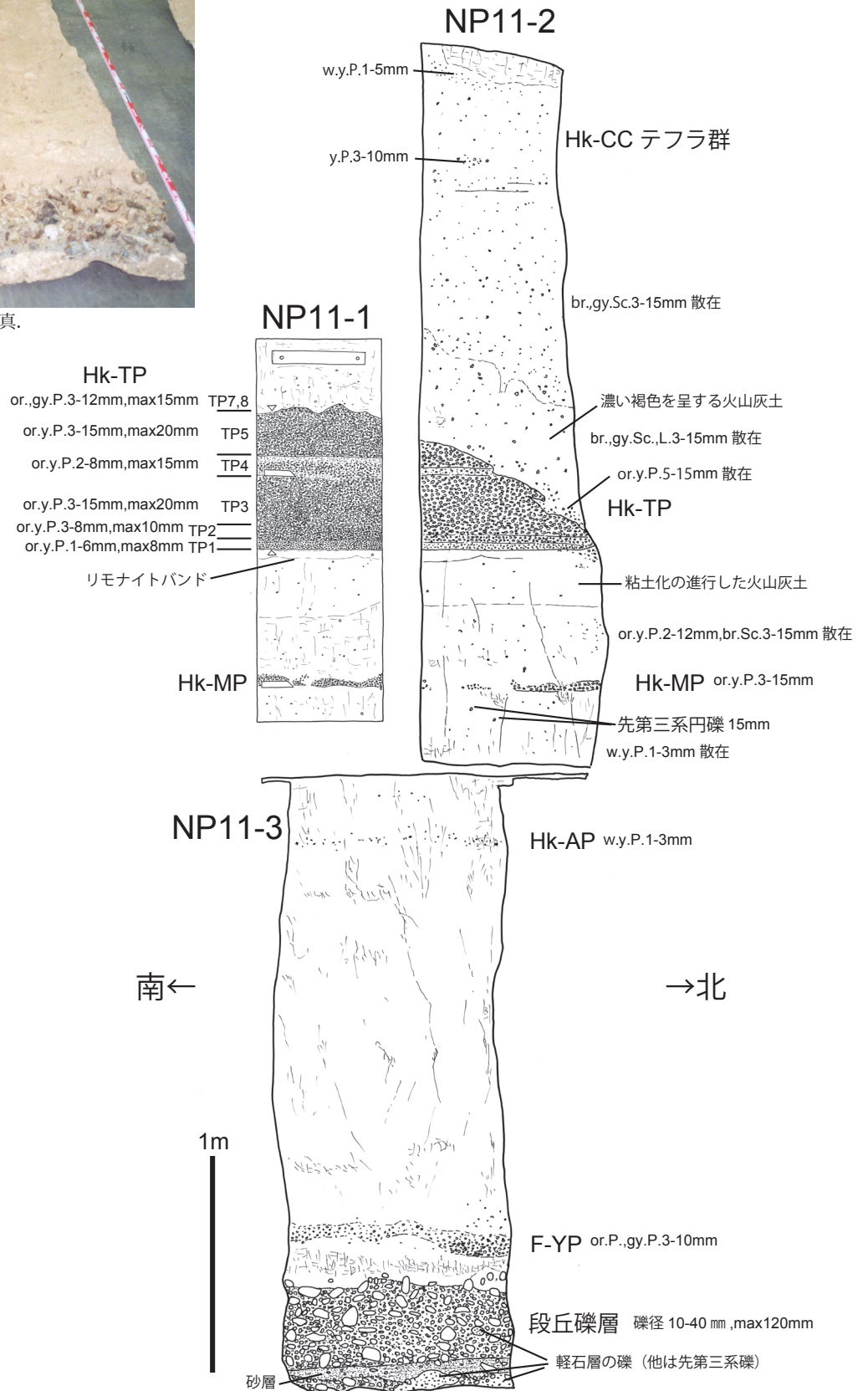


図 1a-12-7. 標本のスケッチ (笠間原図).